

富永ボンドさん（西福岡高校 情報処理科 平成 13 年卒）**卒業後の進路：福岡デザイン専門学校****現在：株式会社ボンドグラフィックス 代表取締役**

福岡講倫館高校の前身である西福岡高校を卒業され、現在、木工用ボンドを使って描く画家をされています。「つなぐ、つくる」を創作テーマとし、絵画のライブ創作を通して、自由に絵を描くことの楽しみをより多くの人へ伝え、日本社会の日常に心と生活の豊かさを創ることを目的とされています。夢は、世界一影響力のある画家となり、日本の医療福祉の分野と地域社会にアートの方で貢献することと、作品はニューヨークやパリなどでも高く評価されています。



今の時代、「セルフプロデュース力」が大事と考え、そのことについてお伺いできれば、本校生に役立つのではと思い事前にその旨を伝えていましたが、「生徒達に一番伝えたい事は何ですか？」とお尋ねして教えていただいたことの方が重要と感じ、そちらを紹介させていただきます。

「一番伝えたいことは、一步を踏み出す選択より、踏み出さない選択が大事」で、今の時代は情報が多すぎて、その中から取捨選択することが大事であるというお話でした。「一步を踏み出すことは難しいと言われるけれどカンタンで、やめる方が難しい。やめる決断が大事。」と、一步を踏み出すことを難しいと思う高校生もいますが、納得の言葉でした。いろんなことを始めて抜け出せなくなることもあるから、「これはしない」という選択肢もあることを念頭に置き、何をやるのかを考えていくと、やりたいことが見つかるとのこと。「大事なものを捨てたとき、大事なものが入ってくる」と、好きで行っていたデザインの世界を捨てた時、アートの道がひらけていったというお話も伺いました。一人が持つ時間は有限で、自分の好きな世界に没頭して取り組む（無我の境地）ためには、情報過多の時代ではむしろ「何をしないか」を選ぶ方が昔よりも重要になっているかもしれないと考えさせられました。

TikTokをはじめとした若者に対して情報発信をされているのは、ご自身の高校生までの苦悩があったからとのこと。選択できないことが多く狭い世界の中では、耐えるしかないこともあるかもしれないが「とりあえず生きとけ」と、様々な活動を通して繋がる若者達に寄り添っていらっしゃる顔を垣間見させていただきました。「お金を稼ぐことが大事なのではなく、お金を何に使うか、自分がこの世に生きて、誰のために役立ったか、社会のために役立ったかが重要」という富永さんの言葉は、若者達からの「何をモチベーションに頑張れるのですか？」という質問への答え。

自分が好きなことや得意なことが、自分が解決させたい社会課題とかけ離れているように思えて、さまざまな選択を悩むことも多いかと思えます。しかし、どちらも自分の中で大切にしていると、かけ離れているものを繋げるのできる人にもなれるとしみじみと思いました。

好きなアートで医療福祉や地域社会に貢献しようとされている根底には、富永さんご自身が高校生の時には立ち向かっても解決できなかった社会課題も関わっていらっしゃいます。夢を叶えるために取り組まれている努力量を推察すると、ITの世界を学べる本校を選択して情報社会に精通し、セルフプロデュースを先駆的に取り組まれている富永さんの凄さをまとめる方がよいのかもしれません。しかし、永い間うまく解決できていない社会問題解決に富永さんが取り組み続けられているのは、夢が叶ったときのイメージが鮮明だからではないかというところがポイントと、インタビューの内容をまとめさせていただきます。